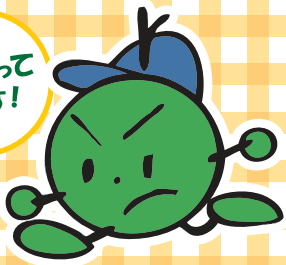


がんばって
います!



こどもエコクラブ

～三重県のこどもエコクラブ活動紹介～

庄内なかよしクラブ (鈴鹿市)

- ・メンバー数 2名
- ・サポーター数 1名
- ・クラブの構成 家族・親戚
- ・代表サポーターの佐藤さんに聞きました



いつものように
できたのですか?

平成20年に地元(鈴鹿市東庄内町)の庄内幼稚園にケナフの苗を育ててもらい、成長したケナフの皮と、牛乳パックを使って「紙すき」をしました。

また、ケナフの木を使って、オリジナルのボールペンを作りました。

そのときに講師として依頼されたのを

きっかけに、こどもエコクラブ「庄内なかよしクラブ」

を立ち上げました。



写真:ボールペンづくり



どのような活動を
していますか?

活動①庄内なかよしクラブの設立の動機が「ケナフ」でしたので、クラブでは、ケナフの種を蒔き、苗から育てています。

利用方法を考えた結果、ケナフの軽くて、比較的丈夫という性質を利用して、木刀を作りました。

【木刀を作るには(注意点)】

●ケナフの木を、まっすぐに育てる



写真:ケナフの木刀で剣道の練習をするメンバー

●木を太くする必要があるので、予め植える場所に落ち葉の腐葉土を肥料としてほどこしておく

また将来、和紙の原料となる「ミツマタ」や、「コウソウ」の幼木を植樹しました。

活動②昆虫が好きなメンバーがカブトムシを飼育をしています。

まず、ポットにメロン瓜を植えて育て、実がなったら2つに切り、切り口を上にして一晩、庭(外)に置いておきます。

太陽が昇るころには、カブトムシは逃げて行くため翌朝早く起きて、メロン瓜に集まってきたカブトムシのオス、メス各1匹ずつを捕獲します。そして予め落ち葉を集めた「保育床」を作っておき、捕獲したカブトムシと、えさのメロン瓜を入れます。

メスが卵を産んで1年経過すると、卵からかえった幼虫は保育床の上部へ上がってきます。このとき幼虫の天敵モグラとカラスの対策が必要です。

なお、幼虫からさなぎになって、成虫になるときはある程度の土が必要なので、保育床の下部に足しています。

活動③近くの河川(御幣川)の水質汚染の目安となる、「水生生物調査」もしています。

調査結果は、カワゲラ、ヘビトンボ、サワガニ、ナガレトビケラ、コオニヤシマトビケラ等があり、水質がきれいということがわかりました。

「ケナフを使った紙すきを通して、紙を大切に、物を大切にすること、ひいては自然を大切にすることを養う。」



どのようなことを
子どもに伝えたいですか?

「カブトムシの飼育」を通して、自然をよく観察する目を養う。
「水生生物調査」を通して、自然をよごさない工夫を考える力を養う。



写真:水生生物調査

こども エコクラブとは

- 入会費・登録費無料
- お問い合わせは環境学習情報センターまで

幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。こども達の興味や関心に基づいて、身近な地域の中でできる活動に自由に取り組みます。仲間が集まればどんなグループでも「こどもエコクラブ」として登録して活動を始めることができます。



こどもエコクラブイメージキャラクター「エコまる」
<http://www.j-ecoclub.jp>